

今月のコラム

室内緑化の光について(人工光と自然光)

緑花技研 藤田 茂

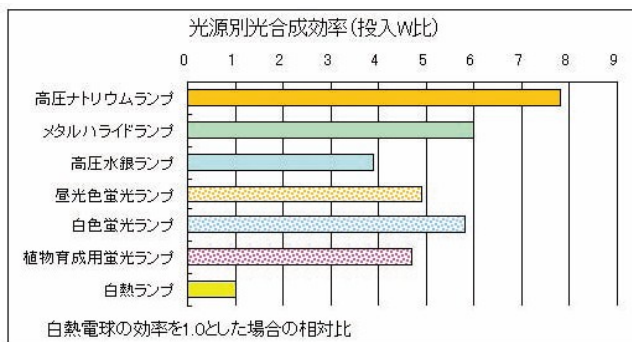


東京大手町の呉服橋近くにオープンしたパソナグループのビルには、1階の室内に約200㎡の田んぼができました。イネの生育には、外部からの自然光だけでは大幅に不足するため、人工照明で生育させています。他にも植物工場・壁面緑化等種々の試みが行なわれており、5月はバラの花をまとったビルになっています。このビルのように、建築物の内外で農業生産を行う計画が世界的に模索されています。今回は人工光の話題を提供します。

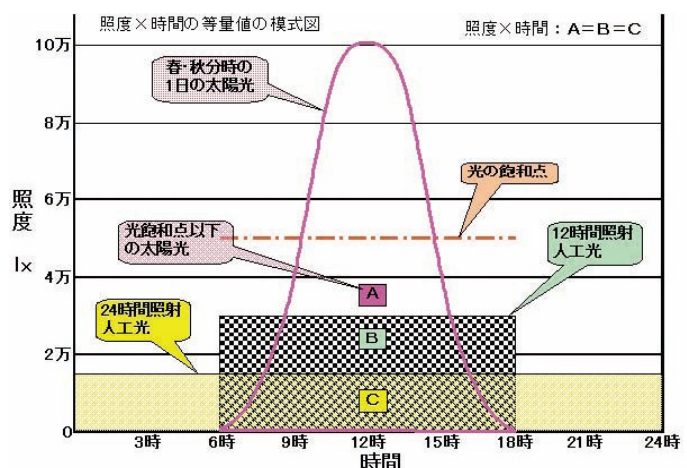
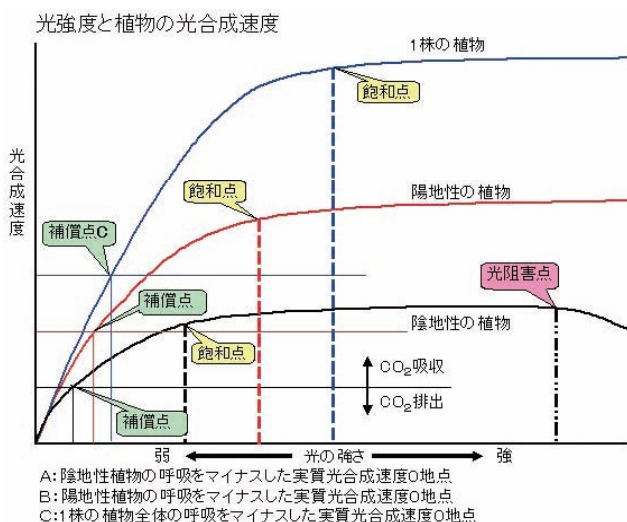
人工照明では、そのランプの種別により光合成効率が異なります。しかし光合成効率の良い高圧ナトリウムランプを照射した場合、イネの葉が黄色く見えてしまいます。植物の葉を緑に見せるには、メタルハライドランプ等が必要になります。室内緑化の現場においては、光合成効率と緑色を両立させるために、高圧ナトリウムランプとメタルハライドランプのカクテル光線とする場合が多く見られます。

植物の生育ではCO₂を吸収し光合成で酸素を放出しますが、光の無い夜間には呼吸でCO₂を放出します。光強度が強くなるにしたがい、CO₂放出から吸収に転換しますが、この時の光強度を補償点と呼びます。光が強くなるに従い光合成量は増加しますが、それ以上強い光強度でも光合成量が增加しなくなる光強度を飽和点と呼びます。この飽和点は1枚の葉では低く、1枝、1本と陰となる部分や光合成を行わない部分が増加するほど強い光強度が必要となります。稲では、1万ルクスでも飽和しないと言われています。

自然光は時間によってその強度が大きく変化しますが、人工照明では時間により変化することなく一定です。このことから人工照明は自然光の光強度より低い光強度でも光合成量は同じとなるわけです。さらに自然界では、晴天日ばかりではなく曇天・雨天日もあるわけです。日の出から日の入りまでの間に日照が得られた日照率は、東京の場合年間約0.46です。この点を勘案すると、人工光を12時間照射する場合自然光の3割程度の光強度で同じ光合成量を確保できることになります。



パソナグループビル室内の田んぼ





カエデ
kaede

28名で生産者部会設立

第1回会合を愛知、千葉で開催

当会では、園芸生産者とメーカー・小売関係の情報交流を更に強化し、また、屋上緑化や壁面緑化等、新たな園芸ビジネスへの取り組み等を通して園芸全般の需要創造に向けて積極的に取り組んでいくため、本年度より「生産者部会」を新たに立ち上げました。

新たに設立された生産者部会は、関西・中部・関東と全国を3ブロックに分け、夫々のブロック活動を主体として、異業種を含めた様々な勉強会や交流会を進め、新しい時代に向けた園芸生産者への取り組みを図っていきます。

生産者部会は、30代を中心にした若手生産者28名が新規に入会。愛知会場での関西・中部ブロック立ち上げ会合は5月20日午後3時より、花の展示会が開かれている最中のハクサン会議室（愛知県長久町）で、その後会場を移して情報交換・懇親会が行われました。

愛知会場では、11名の部会員と理事5名、スタッフ3名の19名が参加し、2時間半ほど2グループに分かれてワークショップが行われました。テーマは、「これからの生産者部会活動について」で、何を求めて参加し、どのような活動が求められるか、活発な意見交換が行われ「価格を自分で決められる商品作りと販路開拓」「夢を語っていききたい」などが最後に発表されました。

席をかえた情報交換会では、理事らは、若手の人たちが何を求めているのか、どのような思い、夢を持っているか。また、若手は、情報を多く持っている理事に知りたいことなど情報交換をし、和気あいあいのうちに解散しました。

関東ブロックの千葉会場は、5月27日午後3時より、9名の部会員と理事など7名が参加して、さんぶの森文化ホール会議室で行われました。愛知会場と同様ワークショップ形式で行われ、その後、情報交換・懇親会が開かれました。

愛知会場、千葉会場の第1回会合でのワークショップを通して出された意見をもとに、今後の生産者部会活動を活発に行っていくことになりましたので、ご期待下さい。



愛知会場でのワークショップ光景



千葉でのワークショップ光景



短信

◎屋上開発研究会によるスカイフロントコーディネーター・屋上緑化資格、受験者募集。6月1日より9月30日まで。
試験は全国4会場、11月3日。

<http://www.sky-front.or.jp/planner/index.html>

◎日本家庭園芸普及協会によるグリーンアドバイザー認定、受験者募集。6月30日締切り。試験は全国4会場で8月、9月。

http://www.kateiengai.or.jp/ga/ga19-2010_0426.html



カエデ
kaede

二宮孝嗣氏、エラズリーフラワーショーで金賞

世界三大フラワーショーすべてで金賞

ニュージーランド・クライストチャーチで同国最大のガーデンショー「2010 エラズリー・インターナショナル・フラワーショー」が3月に開催されたが、二宮孝嗣氏による「伝統的な日本の庭園」がゴールドメダルに輝いた。

イギリスのロバート・ヒリアー審査委員長は「二宮氏の西洋風日本庭園は、私がこれまでに見た彼の作品の中で最高のもので、素晴らしいとしか言いようがありません」と絶賛した。

二宮氏は、1996年に切尔西フラワーショー、2008年にメルボルンフラワーショーで金賞を受賞しており、今回で世界三大フラワーショーを制覇した。



二宮氏の金賞の出品作品
(写真は Ben Cambell Photography)

F&Gジャパンセレクション

1位はマーガレット‘モリンバ’

(社)日本家庭園芸普及協会が3月に幕張メッセで開催した「2010 日本フラワー&ガーデンショウ」の目玉イベント「F&Gジャパンセレクション」の投票結果が発表された。切花・鉢花部門の2部門で23社(者)89種のエントリーがあり、来場者による人気投票が行われた。鉢花部門で来場者投票1位を獲得したのは、マーガレット‘モリンバ ヘリオウォーターメロン’(シンジェンタシード)。よく分枝して丸く乱れることがない草姿は大株に仕立てたときに特に見応えがある。



マーガレット‘モリンバ ヘリオウォーターメロン’

会員紹介

株式会社福島植物園

夏の売店売上げ低減対策

先月末まで続いた春からの天候不順で、生産者の方達や販売店様では管理面等での苦労があったと聞いております。園芸売店様では、春の売上げで年間の収支が決まってしまうと言われており、さらに夏期に向かって売上げが落ちてくると思います。

6月頃から水辺や湿性の植物等が店頭に並べられているようですが、お客様に育て方や、楽しみ方の情報が、今一つ足りないような気がします。人手の少ないスタッフでお客様一人一人に説明ができないこともあると思いますが、寄せ植えの見本や持ち込んだ完成品や、又、庭や池に実際に植えて楽しめる写真等を見ていただいて、納得した上でご購入いただき、少しでも売上げアップになれば良いのかなと思います。

福島植物園では、売店様と前もって打合せして、他に無いオリジナルの企画商品も提案しておりますので、是非ご相談いただければと思います。

お問合せ先

〒960-2261 福島市町庭坂字大膳橋19-5
TEL: 024-591-3969
FAX: 024-591-4487
E-mail: f-syoku@js5.so-net.ne.jp
URL: <http://www.fukusyoku.co.jp>



斑入縞フイ
三ツ葉シモツケ
アケボノアシ
斑入ギボウシ
「焼杉木箱植え」



斑入ギボウシ
メダカソウ
「小山飾り植え」



カエデ
kaede



山荘でリフレッシュ？

(有)松尾貿易商会 松尾雄二



私は輸入プランター屋ですが、自身は園芸に親しんでいるとは云えないのが正直なところです。実験を兼ねて会社で20鉢程、自宅では僅かに3鉢を育てていますが仕立て方や育て方に詳しくはありません。八ヶ岳山麓の標高1300mの蓼科に有る小さな山荘で、月に数回、週末を過ごします。酸性の山地で決して地味が豊かではなく冬は-20℃に下がることもある寒冷地です。その庭ではなるべく自然のままを言い訳に、つまりほったらかしです。しかし自然は実にたくましく埼玉県

の自宅より1月以上遅い春が訪れると、そんなエネルギーをどこに蓄えていたのでしょうか厳しい冬を耐えた植物や昆虫が一斉に活動を始めます。フキノトウが顔を出し、続いてタチツボスミレやアカネスミレが可憐な花を競わせ、水辺ではワサビが日毎に緑を濃くし小さな白い花を咲かせます。樹木はみるみる芽吹き夏には木陰を作ります。自然に最小限にしか手を加えずとても園芸とはいえませんが虫や小鳥たちの活動も含めて、庭の野草たちを楽しんでいます。一方、自宅では商売柄、プランターを利用しています。私の様な怠け者と違い、植物は蓼科のような寒冷地であれ、自宅のプランターであれ与えられた環境で精一杯生きていこうとしています。それならば、少しでも植物に心地よいプランターを選んであげるのが優しさではないでしょうか。手前味噌で恐縮ですが当社のレチューザは本当に良く育ちます。素人同然の私が育てても植物の大きさ、葉の色ツヤの差は歴然としています。ああ、この良さをどうしたら上手く伝えられるだろうかともどかしく、いっその事こんなに良いものは誰にも知らせず独り占めしてしまおうかなどと商売とは間逆の考えまで膨らんでくる始末で、休日のリフレッシュの場であるはずの蓼科の庭で自分の経営力の無さにあきれ、凹んでいる有様です。どうやらメタボの脳味噌にはエネルギーに満ち溢れた新しい芽吹きは無さそうです。



事務局だより

ガーデンを考える会
事務局 TEL052-571-7911
FAX052-571-2208

淡路で開かれた全国オープンガーデンフォーラムin Awajiに出席してきました。全国から350人以上が参加し、盛大に。オープンガーデンの広がり、定着が住みよい町につながっていると思います。